

平成 30 年度おだわら市民交流センターUMECO第三者評価

○ 各委員の評価点の平均点（5点満点）

拠点	相談・支援	協働支援	学習・体験	交流	情報発信	男女共同	国際
3.6 (-)	3.5 (-)	3.1 (-)	3.5 (-)	3.5 (-)	3.3 (-)	3.0 (-)	2.9 (-)

誰でも気軽に	シェアしながら	地域の課題を解決する
3.6 (-)	3.4 (-)	3.1 (-)

※（ ）内は前年度の評価点

I 機能の達成状況

(1) 6つの機能

①拠点機能【3.6点】

- ・ UMECO企画展や活動エリアの稼働率について目標値を達成しており、拠点としての周知が進んでいる。
- ・ UMECO企画展において、より幅広い主体が参加できるよう、ホワイエの積極的活用を図るとともに、アンケートボード等による来場者の満足度の把握やPRに努めていただきたい。
- ・ 登録団体数が減少している理由を分析し、その増加策や団体への効果的なサポート方法を検討する必要がある。

②相談・支援機能【3.5点】

- ・ 指標の精査は必要と考えるが、各事業で目標値を達成できており、特に相談業務については多くの案件に対応できるよう努めていることがうかがえる。
- ・ 相談機能のPR、記録のデータベース化、対応のマニュアル化を行い、誰もが気軽に相談しやすく、適切な情報を得ることができる窓口を目指していただきたい。
- ・ 相談内容を分類・分析し、相談者のニーズを把握することを通じて、これを他事業に活用し、市民活動の活性化につなげていくべきである。

③協働支援機能【3.1点】

- ・ 事業者との協力関係を拡大・継続し、安定して事業を実施するとともに、新たに神奈川県との協力を得て大学を含めたつながりのきっかけを創ったことは評価できる。
- ・ 地域活動団体ネットワーク形成事業について、実施内容や参加団体に偏りがあるため、本来の目的を達成しているとは評価できない。UMECOが主体となって積極的に地域の課題を把握し、ネットワーク事業を展開することに力を注いでいただきたい。
- ・ 地域や事業者と市民活動団体をマッチングする際には、より幅広い視点を持って、新たなつながりを積極的に構築していただきたい。

④学習・体験機能【3.5点】

- ・若者を対象としたものを含め、多岐にわたるきっかけづくりのメニューがあり、特に市民活動出張講座では多くの参加者を得ている。
- ・目標値に達していない事業が散見される。要因を分析し、利用者目線に立った広報手段、開催日時、学習テーマ等を再検討し、訴求力を高める必要がある。
- ・指標の精査を行うとともに、アンケートの活用等により、各種講座等が市民のニーズに合っているか、その後の市民活動につながっているか等、現状把握をより詳細に行っていただきたい。

⑤交流・コーディネート機能【3.5点】

- ・高校生との連携など、各事業に工夫を凝らし活発な交流を図っており、安定した参加者数を確保できている。
- ・各交流会の事業目的や実施内容を精査し、効果を検証するとともに、事業の統廃合も視野に入れた見直しを検討していただきたい。
- ・各イベントの運営は安定していると思われる。マンネリ化対策、団体の負担軽減等、今後の工夫と継続に期待したい。

⑥情報の集約・発信機能【3.3点】

- ・さまざまな媒体を活用し、UMECOや市民活動の情報を発信できている。
- ・全ての事業で指標を設定するとともに、参加者からの意見等を積極的に集約し、結果を分析した上で、より効果的な情報発信に取り組んでいただきたい。
- ・市民活動への参加者を若年層などにも拡大するという観点から、インターネットやSNSを活用した積極的な情報発信手法を検討する必要がある。

(2) その他

①男女共同参画【3.0点】

- ・市と連携して事業を継続している。今後、行政への協力を強化するだけでなく、UMECOにおいてもニーズ調査や議題の選定等に主体的に取り組み、集客につなげていただきたい。

②国際交流【2.9点】

- ・一定の事業を継続している。現行の展示スペースをさらに活用したり、他事業においてこの分野をテーマとして取り上げるなど、今後の積極的、継続的な取組に期待する。

II コンセプトの達成状況

①誰でも気軽に つながりを生み出すきっかけの場【3.6点】

- ・多彩な事業を通じ、幅広い活動の場を提供できており、市民活動を始めるきっかけの場として十分な役割を果たしている。
- ・UMECO全体の事業がこのコンセプトに偏っている傾向がある。「きっかけ」を「行動」、「実現」につなげていくという視点から事業のバランスを見直していただきたい。
- ・事業の見直しにあたっては、参加者の意見集約結果にもとづき、実施内容の改善までのサイクルの確立、事業の対象に応じた広報媒体の選定、異世代交流の促進等、さまざまな工夫が必要である。

②シェアしながら それぞれの思いが繋がる行動の場【3.4点】

- ・団体間の交流を通じ、参加者相互の学びの場として機能するとともに、今後の活動における連携・協力が期待できる。
- ・市民活動団体間、地域活動団体、事業者、NPO法人等、各主体の積極的な参加を促すような取組に期待する。
- ・取組にあたり、事業実施時には団体間の交流の意義を明確にするとともに、実施後には聴取した意見等をもとに事業内容を見直し、より発展的な連携の構築や参加者増を図っていただきたい。

③地域の課題を解決する 行動を社会貢献につなげる実現の場【3.1点】

- ・継続的に、地域活動団体と市民活動団体を中心としたマッチングを進めてきており、UMECOの活動として定着し、ネットワークを構築している。
- ・現状では、限られた団体しか参加していない。地域の課題を幅広く把握し、それを解決するという視点をもって、行政等さまざまな主体と連携しながら事業に取り組んでいただきたい。
- ・地域課題の解決に向け、指標の精査、アンケートの活用等を行いながらPDCAサイクルを定着させる必要がある。

III まとめ

多くの事業を継続して実施しており、特に多様な主体間での連携に取り組み始めていることなど、機能面では一定の成果を上げていると評価できる。

しかし、UMECO全体の事業が「きっかけの場」としてのものに偏っていること、参加している団体や分野が限定されていることなどの課題がある。

今後は、UMECOが最終的に社会貢献の「実現の場」を目指していることを改めて意識していただき、地域の課題をより幅広く積極的に把握し、解決に向けた事業に取り組まれることを望む。

なお、事業の実施にあたっては、アンケート等を活用し、その効果を客観的に検証していただきたい。